

【九州国立博物館】(計22件)

<絵画> (2件)

1 名称	宝冠阿弥陀如来像 (ほうかんあみだによらいぞう)	品 質	絹本着色
作者等		員 数	1幅
時 代	中国・南宋時代 13世紀	寸 法 等	本紙：縦108.8 横49.2、表装：縦163.0 横69.2 軸長74.6
作品概要	宝冠を着けて定印を結ぶ、特徴ある阿弥陀如来を細緻な筆致で描く。中国・南宋時代の正統的な本尊画像で、東京・静嘉堂文庫美術館の「釈迦如来像」や蘭溪道隆(1213-78)請来と伝わる神奈川・建長寺の「釈迦三尊像」(重要文化財)と共通する表現描写が見いだせる。これら3作品は同一の環境で制作された可能性が考えられ、南宋における仏画制作を考える上でも意義深い。鎌倉時代にもたらされ、それ以降の日本中世の絵画・彫刻の規範となり、多大な影響を及ぼしたであろう宋代絵画の一例として、また入念に描かれた佳品としてその価値はきわめて高い。		
購入金額	165,000,000円		



2 名称	竹図屏風 (たけずびょうぶ)	品 質	紙本金地着色
作者等		員 数	1隻
時 代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	本紙 縦153.3、横350.2 (折畳時 縦170.5、横63.0、厚11.0)
作品概要	筍が伸びた夏の竹、赤い蔦の絡まる秋の竹、雪を冠った冬の竹を描く6曲1隻の屏風。画面構成は、日本の伝統的な景物画と中国絵画の四季墨竹図の構成が混淆した室町時代のやまと絵屏風である四季竹図屏風(メトロポリタン美術館蔵)左隻のそれに酷似する。しかし、枯淡な作風をもつMET本に対して、本作品は基底材を金箔地に変更して装飾性を高めており、近世初期の翻案的作例と考えるべきである。また、明時代の元・李衍『竹譜詳録』の影響も指摘されている。室町時代のやまと絵屏風は、中国、朝鮮などへの朝貢品、贈答品であったが、同時代の作例は現存数が大変少なく、本作品はそのような中世着色屏風を想起させる希少な作例である。		
購入金額	31,166,666円		



<陶磁> (2件)

1 名称	(かたつきちやいれ めい ふじ)	品 質	陶器
作者等	高取 白旗山窯(1630-65)	員 数	1口
時 代	江戸時代 17世紀中葉	寸 法 等	口径3.2 底径3.0 高7.3
作品概要	高取焼の肩衝茶入。二代福岡藩主の黒田忠之(1602-54)は、江戸幕府の茶の湯指南役であった小堀遠州(1579-1647)と交流があった。高取焼は、寛永年間(1624-44)には遠州の指導を受けて、洗練された作風の茶陶を生産するようになった。本作品は、端正な作りで、透明感のある釉薬が際立つ。安土桃山時代の豪放な様式は影をひそめ、江戸時代初期の新しい様式を示す作品である。胴部に巡らした糸目の刻文も繊細で、内面の丁寧な仕上げや、底部が右糸切であることなどから、白旗山窯の製品と考えられる。「富士」の銘に相応しく、重ねられた釉薬は美しい山景色を成す。仕覆が3袋付き、それぞれの中込に、「伊予殿好此方二而/高取白薬/しゆす地銀入ノ紋」、「高取白薬/毛う留」、「高取白薬/博多織」と墨書され、さらに牙蓋も5枚付属し、その包紙にも、「伊予殿好/此方より/長左衛門挽」「此方二而」「宗玄好」の記載がある。		
購入金額	20,000,000円		



2 名称	半筒茶碗 銘 村雨 (はんづつちやわん めい むらさめ)	品 質	陶器
作者等	高取 白旗山窯(1630-65)	員 数	1口
時 代	江戸時代 17世紀中葉	寸 法 等	口径11.0 底径5.2 高7.5
作品概要	端正な作りの高取焼の半筒茶碗で、鉄釉と藁灰釉を内外に掛け分け、その絶妙な混ざり合いが簾のような美しい景色を成しており、「村雨」の銘に相応しい。透明感のある釉調は洗練された印象を与える。安土桃山時代の豪放な様式は影をひそめ、江戸時代初期の新しい様式を示す作品のため、高取焼が小堀遠州(1579-1647)の指導を受けて洗練された作品を生産するようになった、白旗山窯の製品と考えられる。本作品は、益田鈍翁(1848-1938)旧蔵品で、風呂敷と内箱蓋裏に鈍翁の蔵印がある。また内箱蓋表の銀字について、遠州筆であるとの小堀宗慶(1923-)による極書が付属する。		
購入金額	15,125,000円		



<考古> (16件)

1 名称	深鉢形土器 (ふかばちがたどき)	品 質	土製
作者等	青森県三戸郡出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高85.7 最大径47.0 底径16.0
作品概要	口縁部に4つの突起を持つ大形円筒形の土器で、胴部は羽状文と呼ばれる鳥の羽根状の縄目文を地文とし、その上に細い粘土紐を貼り付け幾何学文様を施す。類品は、縄文時代中期の東北地方北部から北海道南西部にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焰型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		
購入金額	3,080,000円		



2 名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品 質	土製
作 者 等	伝神奈川県出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高65.0 最大径48.0
作品概要	大形のバケツ形の土器で、口縁部には1個の眼鏡状の突起が付き、胴部には粘土紐貼り付けによる楕円形文が廻る。類品は縄文時代中期の関東地方西部から中部地方にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焰型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		
購入金額	3,850,000円		



3 名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品 質	土製
作 者 等	伝長野県山形村三夜塚出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高60.0 最大径44.0
作品概要	大形のバケツ形の土器で、粘土紐の貼り付けによる連続する楕円形文やへびなどの動物風の文様を持つ。類品は、縄文時代中期の関東地方西部から中部地方にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焰型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		
購入金額	2,310,000円		



4 名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品 質	土製
作 者 等		員 数	1口
時 代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高51.0 最大径37.0
作品概要	口縁部に立体的な透かしを有する四つの突起を持ち、胴部に唐草文風の文様が施された土器である。類品は縄文時代中期の東北地方南部で出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焰型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		
購入金額	3,850,000円		



5 名称	岩版（がんばん）	品質	石製（白色凝灰岩製）。
作者等	秋田県能代市二ツ井町麻生上ノ山出土	員数	1個
時代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸法等	縦13.6 横9.5 厚2.2
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から出土する岩版である。台形に成形した白色凝灰岩に、遮光器土偶の眼部、正中線、全面にS字・逆S字状文などを線刻して赤彩を施している。数ある岩版の中で最も優れた作例の一つである。明治時代に出土し、学会で紹介された後、永らく民間で所蔵されてきた。		
購入金額	12,375,000円		



6 名称	注口土器（ちゅうこうどぎ）	品質	土製
作者等	千葉県成田市荒海貝塚出土	員数	1口
時代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸法等	高9.5 最大径12.0
作品概要	縄文時代晩期の関東地方から出土する土器である。羽釜のような形で、欠失した注口部の上方には、この時期の土偶の特徴であるミミズク風の顔面装飾が付く。千葉県成田市の考古資料収集家、大野市平の旧蔵品で、付属資料として江見水蔭、水谷幻花、坪井正五郎等の明治期の考古資料収集家や人類学者からの書簡類がある。		
購入金額	2,480,000円		



7 名称	土偶（どぐう）	品質	土製
作者等	岩手県岩手町高梨遺跡出土	員数	1軀
時代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸法等	高18.8 幅10.2 厚5.4
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から出土する亀ヶ岡文化の土偶である。中空の作りで、眼部は雪眼鏡（遮光器）風に表現され、全身に雲形文や赤彩が施されている。縄文時代に肩部で割れた後、下半身が火を受け黄土色に変色している。		
購入金額	30,000,000円		



8 名称	重要文化財 山口県竹島古墳出土品（やまぐちけんたけしまこふんしゅつどひん）	品 質	(1)-(4) 青銅製 (5)-(8) 鉄製
作者等	山口県周南市竹島御家老屋敷古墳	員 数	一括
時 代	古墳時代	寸 法 等	(1)直径22.8 (2)直径22.3 (3)最大径17.7 (4)残存長2.1~5.8 厚2.2 (5)残存長3.7 (6)長さ36、37、41程度 (7)長さ27.1程度 (8)残存長8.8
作品概要	山口県周南市に所在する全長約56mの規模を持つ古墳時代前期の前方後円墳である竹島御家老屋敷古墳より明治21年に出土した一括品である。昭和63年6月6日付で、(1)・(2)三角縁神獸鏡2面、(3)神人車馬画像鏡1面、(4)銅鏃26本、(5)鉄鏃1本、(6)鉄剣3振、(7)素環頭大刀1振、(8)鉄斧1本が一括で「山口県竹島古墳出土品」として国の重要文化財に指定されている。中でも三角縁神獸鏡のうち1面は、群馬県蟹沢古墳出土例、兵庫県森尾古墳出土例と同型鏡で「正始元年」の年号を持つ銘鏡であることが知られる。またもう1面の三角縁神獸鏡も、京都府椿井大塚山古墳、福岡県神蔵古墳、神奈川県加瀬白山古墳出土品に同范鏡が知られる古式の三角縁神獸鏡である。古墳時代前期前半の地域首長墓におさめられた副葬品セットの典型例を示す点でも非常に価値が高い資料群である。		
購入金額	53,000,000円		



9 名称	二重口縁壺（にじゅうこうえんつぼ）	品 質	土製
作者等	関東地域	員 数	1口
時 代	古墳時代 4世紀	寸 法 等	口縁部径20.2、底部径9.5、胴部最大径31.0、器高34.5
作品概要	やや下膨れの胴部と小さな平底、強く締まる短い頸部と大きく開く二重口縁を持つ、関東地方古墳時代前期頃の二重口縁壺である。胴部上半と口縁部に、櫛状工具による密な平行沈線を交差させるように斜めに施し、細かい斜格子文状の文様帯を形成している。この文様帯と底部を除く胴部外面のほぼ全体に赤色顔料を塗布し、細かい磨きによって仕上げる、赤彩土器のひとつである。		
購入金額	4,000,000円		



10 名称	青磁博山炉（せいじはくさんろ）	品 質	青磁
作者等	中国	員 数	1合
時 代	中国・南北朝時代 5-6世紀	寸 法 等	口径5.9 盤径9.3 総高12.7
作品概要	承盤と一体化した炉身と蓋からなる。蓋は全体が円錐形で、神々や仙人のすまう空想上の「博山」を象る。蓋には2カ所に煙出しの小さな円孔を設ける。承盤の底部には裾の緩やかに広がる中実の脚台がつく。淡緑色の青磁釉がほぼ全体に薄くかかるが、炉身と蓋のわずかに張り出す口縁部にはかからない。 漢時代の中国に東南アジアや西アジアから龍腦樹など樹脂性の香料が伝わるようになると、それらを焚くのに適した深手の博山炉が登場した。南北朝時代になると、博山炉は漢時代の基本的な形態を継承しつつ、材質の面では青銅製や緑釉陶に代わり青磁の作例が主流となった。小型の本作は墓に副葬するための非実用品ながら、異国産の香料を嗜む六朝貴族の優雅な暮らしの一端を今に伝えている。		
購入金額	16,500,000円		



11 名称	重要文化財 埴輪 鹿（はにわ しか）	品 質	土製
作 者 等	伝群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）大字境上武士 天神山古墳出土	員 数	1個
時 代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	長48.5 幅29.5 高52.7
作品概要	古墳に立て並べられた動物埴輪で、指定名称は「埴輪 犬」だが、形態上の特徴から鹿を表したものである。頭頂部を除きほぼ欠損が認められない完形品で、後補部が見分けの付かないよう丁寧な修復が施されている。焼成は良好で赤褐色を呈し、全体にハケ調整が施されている。頭部周辺は特に仕上げが丁寧で、ナデやケズリを多用して仕上げられている。鹿の子模様などが表されているかは不明である。目は楕円形で、鼻は2つの円孔で表現する。口は大きく開き、両端は線刻される。耳はピンと立ち、横向きである。胴及び頭部は中空で、尻尾は下方にまっすぐに伸びる。尻尾の下には透かし孔を1つ開けている。長い四脚を持ち、各脚端の踵に当たる部分は、斜めに切り落とされる。		
購入金額	26,400,000円		



12 名称	埴輪 猪（はにわ いのしし）	品 質	土製
作 者 等	茨城県旧真壁郡内出土	員 数	1個
時 代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	長60.5 幅24.5 高50.8
作品概要	古墳に立て並べられた動物埴輪で、鼻筋が短く鼻孔が正面を向く特徴やたてがみが表されている。色調は淡赤褐色である。胴体から後脚にかけて欠損が認められるが、完形に復元されている。胴および頭・脚部は中空である。目は杏仁形に開けられた切れ目状で、口は中央を大きく開き、両端は線刻で表現する。耳はピンと立って横向きである。背はたてがみを板状に表現する。尻尾は短くやや上方に直立する。尻尾の下部に透かし孔を1孔開ける。脚はまっすぐに延び、蹄の表現は認められない。たてがみから胴部にかけて両面に線刻がある。東京国立博物館の重要文化財「埴輪 猪」（群馬県上武士天神山古墳出土）は本品とも造形的に近く、数少ない優品のひとつと見ることができる。		
購入金額	11,137,500円		



13 名称	埴輪 壺を持つ女子（はにわ つぼをもつじょし）	品 質	土製
作 者 等	群馬県前橋市（旧荒砥村）出土	員 数	1軀
時 代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅40.5 奥行18.5 高さ55.0
作品概要	古墳に立て並べられた人物埴輪で、右手を腰帯に当て、左手で小壺を持つ上半身の女性像である。島田髷を結び入墨を刺し、両肩に褌をかけて舞う巫女を表現している。基台の最下部や左腕の一部などに欠損が認められるが、その他の部分は残存し、完形に復元されている。縦方向のハケ目で調整される。頭部には島田髷（潰し島田）を結び、前額には突起と線刻で前から縦櫛を挿している。両眼は切れ目状に透かしを入れ、眉と鼻は粘土を軽く隆起させて表現する。口は右口角を少し上がり気味に表し、耳には耳環を装着する。首飾りや着衣の表現が無く、胸は粘土を貼り付けて乳房を表す。褌をかけただけの裸身の可能性もある。腰には腰帯を表現し中央で留め、右手を帯に添える。左手は横に伸ばし、掌に小壺をつかむ。		
購入金額	10,000,000円		



14 名称	埴輪 女子（はにわ じょし）	品 質	土製
作 者 等	伝群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）大字境上武士 天神山古墳出土	員 数	1軀
時 代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅36.5 奥行25.0 高92.5
作品概要	乳房を表現した女性の上半身象である。基台の上部に透かし孔を対向方向に2ヶ所開け、最下部には一条の低位置突帯をめぐらせる。胴体部の大半は欠損しており後補であるが、それ以外の顔などについては残存している。表面には縦方向のハケ調整が顕著に遺存し、ていねいに仕上げられたことが分かる。髪型は頭部よりも大きな島田髷（漬し島田）で、前額部に竖櫛を隆起した形で表す。目は切れ目状に透かし孔を設け、眉と鼻はT字形に一連で表現される。目から下方にかけて縦方向の黒色顔料の塗布が確認されるため、入墨を表現した可能性がある。口は小さな一文字状であり、耳には小玉を連ねた飾りを着用し、その下に耳環を垂らす。首には首飾りを着け、手首にも腕飾りを表現する。		
購入金額	10,000,000円		



15 名称	埴輪 農夫（はにわ のうふ）	品 質	土製
作 者 等	伝群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）大字境上武士 天神山古墳出土	員 数	1軀
時 代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅36.5 奥行22.5 高114.5
作品概要	笠をかぶり、右肩に農具をかけた男子（農夫）を表現する。背から腹にかけて大きな欠損が認められ、後補部分が多いが、顔並びに基台についてはほぼ完存する。基台に透かし孔を対向する方向に2つあける。 笠は先端が尖る円錐形のもので、菅笠や網代笠のような編笠の一種と判断される。目は杏仁形に透かし孔をあけ、眉と鼻は連結して粘土を隆起させて作り出している。口は横一文字に透かし孔で表現する。耳は大きな耳環を着装し、その上から耳の脇で束ねた髪を折り返してまとめた「上げ美豆良」を結う。右肩にかけたものは、農具と判断されるが鍬か鎌かは判然としない。また、両手は農具を握らずに胸に当てている。		
購入金額	10,000,000円		



16 名称	埴輪 盛装男子（はにわ せいそうだんし）	品 質	土製
作 者 等		員 数	1軀
時 代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅36.5 奥行22.5 高114.5
作品概要	下げ美豆良を結び、頭には頭巾をかぶった男性の全身像である。首飾りを付けて大刀を佩き、籠手をはめ着衣を着て盛装する。右胸、左足などの部分に多く欠損があり、後補となっている。基台は楕円形で対向する方向に2つの透かし孔を設け、最下段突帯を有する。頭部は頭巾をかぶり、その上から鉢巻を結う。目は杏仁形に透かし孔で表現し、眉と鼻は隆起させて作り出す。耳には耳環を着け、その上から下げ美豆良を結う。首には首飾りを着ける。腰に手を当てて肘には籠手を着装する。腰には粘土紐を隆起させて腰帯を表し、腰前に大刀、腰左側に鞆を表現する。鞆は、弓を射る際に弦が左手に当たらないように守る革製の防具である。両脚は膝の部分に脚結び紐を表現する。先端が尖った履をはいている。		
購入金額	16,000,000円		



<歴史資料> (2件)

1 名称	豊臣秀次朱印状 (とよとみひでつぐしゅいんじょう)	品 質	紙本墨書
作者等		員 数	1幅
時 代	安土桃山時代 文禄2年(1593)	寸 法 等	本紙：縦21.9 横59.9 表装：縦105.5 横62.5 軸長67.5
作品概要	<p>文禄2年(1593)5月26日付、宗義智宛に発給された豊臣秀次の朱印状である。朝鮮半島に在陣する義智への在陣見舞状である。豊臣秀吉が名護屋に在陣する一方で、秀次は京都に残り、5月26日付あるいはその前後の日付で、朝鮮半島在陣中の諸将に、本品と同内容の在陣見舞の朱印状を発給している。日本側と明側で講和交渉が行われ、明から秀吉のもとに偽装した「勅使」が派遣されることになったことを受け、秀吉は5月1日付で、朝鮮半島に在陣する諸将に見舞いの朱印状を発給している。秀次の見舞いの朱印状発給も、この秀吉の動きに合わせたものと位置付けられる。</p> <p>本品はおそらくも折紙であったが、江戸時代に対馬藩で巻子に改装された。明治維新後、藩主が東京に移るに伴い、この巻子も明治11年(1878)に対馬から東京に移送された。大正15年(1926)に宗伯爵家は「宗家文書」の一部を朝鮮総督府朝鮮史編修会に売却した。朝鮮半島に渡っていた「宗家文書」は、戦後に日本に戻り、掛幅装などに改装されて、美術品市場に出回った。本品も同様の経緯を辿ったものである。</p> <p>本品は「文禄の役」時に朝鮮半島に在陣していた大名にのみ発給された朱印状で、豊臣秀吉と秀次の二重の政治構造を垣間見せる一次史料として重要である。</p>		
購入金額	3,500,000円		



2 名称	安南国清王鄭樞令旨 (あんなんこくせいおうちんちゃんりょうじ)	品 質	紙本墨書
作者等		員 数	1幅
時 代	ベトナム・黎朝時代 徳隆6年(1634)	寸 法 等	(本紙)縦37.7 横50.2 (表装)縦126.2 横62.3 軸張67.9
作品概要	<p>安南国の清王鄭樞(フ・フン、在位1623-57)が日本人商人「喜左衛門」に宛てた指令書。先年「義子啓明」と「宗右」に与えた答礼品について、啓明を通じて宗右の父母親戚に受領させるよう、帰国する喜左衛門に令達する。鄭樞は黎朝皇帝のもとでベトナム北部を支配した鄭氏の当主。喜左衛門・啓明・宗右は鄭樞のもとに来航した日本人である。本令旨の2年前に鄭樞が発した「安南国答賜物目録」(重文、個人蔵)との関係から、3人の日本人は朱印船貿易を営んだ豪商末 家の関係者と想定される。本令旨は16-17世紀のベトナムの人々が日本人に宛てた安南文書(安南日越外交文書)の新出史料の原文書であり、日越外交史やアジアの古文書学上、大変貴重な資料である。</p>		
購入金額	27,500,000円		

